

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		あさがおねっと守口（児童発達支援）		公表日		2025 年 4 月 1 日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%	0%	課題・余暇、本を読む場所などは時間とエリアごとに分けている。	課題やプリントに取り組んでいる児童に対して集中しやすいエリア・場所などもより配慮出来るようにする。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	67%	33%	グループ内でヘルプを出すことで、人員の配置の対応をしている。	急な欠員が出たりする時等、日によっては不安定な時がある。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	100%	0%	視覚による情報量にも配慮しながら、情報の過多にならないように壁に貼るルールやお知らせなどは必要最低限にしている。	休養スペースなどはなかなかとりにくいため、今後対策が必要。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%	0%	普段使わないおもちゃは、奥の部屋へ。子どもたちが使いたい、とスタッフに伝えてから渡すようにする事で、相手への伝え方を引き出せるよう意識している。	クールダウンに適したスペースなどが無いので、今後対策が必要。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%	0%	着替えが必要な時や、パニックになってしまった際落ち着けるように個室の準備がある。	個室の部屋数としてはまだまだ不足に思っているので、対策は考えていきたい。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	100%	0%	サービス終了後には終礼を行い、各スタッフに情報の共有と連絡の漏れがないかの確認を行う。	パートの方への周知は常勤に比べ直接伝達がしにくいので、そういった点を意識しながら情報共有に気を付けたい。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	評価表の内容を情報共有しながら、改善策を検討している。	改善に向けた取り組みが実施されているか、わかりにくい部分がある。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%	0%	終礼の際には、スタッフ1人1人の意見などを把握するようにしている。	口答での伝達が多いため、引継ぎノート等をより活用する必要も考えていく。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	100%	0%	情報の共有と、業務内容の見直しなどをしながら改善につなげている。	関係各所と連携しながら、機関支援なども今後検討していく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%	0%	機会に関して、どういった研修があるかを意識的に通知している。	研修はより多く取り組んで回数も増やしていきたい。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%	0%	作成したプログラムは、支援員に目を通してもらいながら、基本となる方針を伝えている。	利用者の人数に応じて、情報もより多くなり複雑化するので、児童一人ひとりの情報共有に気を付けたい。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	100%	0%	ニーズに応じた情報の共有と、一人の私見だけでなく全体のチームとして児童への関わり方を日々話し合っている。	1人1人のスタッフの支援方法の統一など、児童のソーシャルスキルに応じた対応もまた変わってくるため、成長に応じたアセスメントに留意する。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%	0%	各職員が共通理解のもと、会議で話し合い日々検討が行われている。	全員が揃ったミーティングはなかなか難しいため、引継ぎノートや各自ファイリングに目を通した時に意見をもらうのが重要になる。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%	0%	業務用の伝達ツールなどを使いながら、職員への伝達に漏れが無いよう気を付けている。	1人1人の児童の支援方針も都度意識して方向修正も含め、行っていく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	100%	0%	ケース記録など、各スタッフが欲しい情報をすぐ引き出せるように、ファイリングしたまのおいている。	日々の行動観察では、毎日の記入は難しいため、その日その日のポイントでの記入しかできていない。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%	0%	児童本人が今抱える課題や、必要なスキル、取り組むべき活動の傾向についてを具体的に記載するようにしている。	移行支援・地域支援や連携がどういったものか、理解をしながら職員で共有していく必要がある。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%	0%	スタッフ一人ひとりに意見を求めるようにしている。	非常勤の方が参加できる機会が少ないので増やしていけるような対策を考える。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	100%	0%	月ごとに担当を変えるなどの、ローテーションを組んでいる。	プログラムによって慣れていて、慣れていないがあるので、差が出すぎないように気を付ける必要がある。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	100%	0%	得意不得意、苦手意識の高い児童も多いので、無理に進めず、やってみたら意外とできたよ、が出来るように意識している。	集団での療育になる為、活動内容には一人ひとりの特性にも大きく気を付ける必要がある。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%	0%	役割分担では、視覚的にわかりやすいようボードに今日の担当などはるようにしている。	打ち合わせにかけられる時間が限られているので、朝の準備で抜けがある時がある。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	100%	0%	終礼を毎日行い、その日の気付きなどは話し合うようにしている。	振り返りや気づきなど、引継ぎノートだけでは伝わりにくい部分がある。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%	0%	ケース記録をサービス終了後にできるだけ記入するようにしている。	特に問題があった際には、記録を振り返るようにしているが、時間的に次の日に検証する事になる事が多い。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%	0%	モニタリングでは児童本人の選択と、保護者のニーズに応じた内容を取り入れるようにしている。	就業されている方も多く、時間や日程の調整が難しいケースが多い。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	100%	0%	ガイドラインに準じた支援になるように気を付けている。	ガイドラインを各スタッフが周知する機会がまだ少ない。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	100%	0%	先回りせず、児童の選択を待つようにしている。	支援方法の共通認識として、ケースに応じて対応できているかに個人差が出てしまう。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%	0%	児発管だけでなく、その児童に詳しい担当が参加するようにしている。	個人個人によって、現在その児童が抱えている課題や問題の傾向の見え方も違うので、その都度話しあう必要がある。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%	0%	連携ができる機会には、積極的に参加をする。	会議の回数自体は多くない為、連携をもつ機会が限られている。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	100%	0%	保護者の許可のもと、直接連絡を取り、時間などの調整を行っている。	下校時間は地域の学校によって微妙に差がある為、調整が難しい。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	100%	0%	児童、保護者の心配・不安にも配慮しながら、必要と思う際にこちらから連絡を取るようにしている。	個人情報の取扱いに注意をしなからずめる必要がある。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	100%	0%	事業所で取り組んでいた課題、できるようになった事等は積極的に情報の提供をしている。	卒業後の作業所の連絡先などがわからない場合が多いため、事前に情報の共有を行うようにする。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	100%	0%	研修のお知らせなどには積極的に目を通し、可能な限り参加出来るようにする。	日々の支援にも重要だが、連携をする機会がまだまだ少ない。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	67%	33%	グループ内での交流では、合同の外出支援など他の児童と関わる機会がしやすい。	グループ外での地域交流はまだ少ないように思うので増やしていきたい。
	33	(自立支援)協議会等へ積極的に参加しているか。	100%	0%	情報の収集を行うようにしている。	機会がまだ作れず参加できていない。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	100%	0%	その日の児童の様子や取り組みを、具体的に保護者様へお伝えするようにしている。	保護者様と話す機会があるスタッフも限られるので、交流の場は必要なので作っていきたい。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	100%	0%	情報の収集・共有できるように検討している。	家族が参加できる内容や企画がまだなかなかできていない。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%	0%	金額に関して不安や疑問を持つご利用者様も多いので、不安を取り除かれる様丁寧に説明をしています。	支援プログラムの内容は、実際に児童が体験している様子をもとに説明していけるようにしたい。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%	0%	日々の中で、何が課題、問題となっているか、寄り添えるような姿勢に気を付けています。	ニーズに応じて対応していきたいが、人員と対応できる時間などの調整には限界がある為、日々検討している。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	100%	0%	一度確認して頂き、計画の訂正が必要な箇所を保護者と一緒に見て考えられるようにしている。	ニュアンスなどで伝わり方も違うときがないように留意する。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	83%	17%	保護者の不安に感じる点を寄り添って考えながら、電話での面談、直接事業所に着ていたたりしている。	面談時間調整も保護者様によって調整が難しい事も多いので、早めのお知らせができるよう計画が必要

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	100%	0%	事業所でのイベントの企画の際は書面にて早めのお知らせをするようにしている。	頻繁に開催はできていないため、今後企画が出来るように増やしていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%	0%	実際に対応したスタッフが状況に詳しいので、状況をわかりやすく説明できるようにしている。	事故があった際、現場を目撃できていないバターンもあるので、より的確に状況の把握ができるよう普段からの報連相に気を付ける。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	100%	0%	ブログや通信などを発信しながら、保護者が様子をみやすいようにしている。	ブログの周知自体は出来ているものの、周知できていない部分も見られる。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%	0%	社外秘ファイルなどを作り、閲覧する情報の内容にも気を付けている。	なし
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%	0%	児童、保護者の思いや気持ちにも寄り添えるよう意識している。	当事者本人の立場になって考える、を日々意識する事でより良い支援に繋げたい。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	100%	0%	参画した際にはお知らせをしている。	回数はまだまだ少ないため、今後増やしていけるように検討したい。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%	0%	定期的に実施している。	実際に実施している様子は、まだまだ伝わりにくいと感ずる。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%	0%	定期的施設内で非常食の作り方や、避難経路の確保練習などの準備をしている。	ケースに応じた避難訓練はまだまだ検討する余地が多いので、今後考えていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	100%	0%	保護者には、与薬依頼書を含めて服用する際の注意点などお話をさせて頂いている。	服薬するタイミングが、状況によって難しいと意見もあるので、今後検討していく必要がある。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%	0%	ご契約時に必要な際は指示書をお預かりするようにしている。	こちらの事業所ではあまりそういったケースが無いため、もしそういったケースがある場合再度検討する必要がある。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%	0%	各スタッフが安全管理について話しあったりしているので、日々気を付けている。	研修や訓練はまだまだ少ないので、増やしていけるようにする。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%	0%	周知している。	周知するためのツールはまだ多くはないので、検討していく必要がある。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%	0%	ひやりはつとのファイルを他のスタッフも手に取りやすい位置に配置している。	意識して記入ができていない部分が見られるので、都度記入していけるよう改善していく。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%	0%	定期的に研修を行っている。	研修時だけでなく、どういった対応が虐待になるかを、スタッフ同士の会話、日々の支援の中で意識していくことも重要になる。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	100%	0%	支援中に拘束が必要と判断される場合には、保護者には必ず説明と了解を受けるようにしている。	力の加減など、対応できるスタッフにも限りがあるので、現場の状況、安全を第一考えながら支援を検討する必要がある。	